資料 2-2

令 和 6 年 9 月 5 日
福井県エネルギー環境部自然環境課

令和６年度 堅果類の豊凶状況および出没予測について

１ 堅果類の豊凶状況

〇高標高域（奥山）

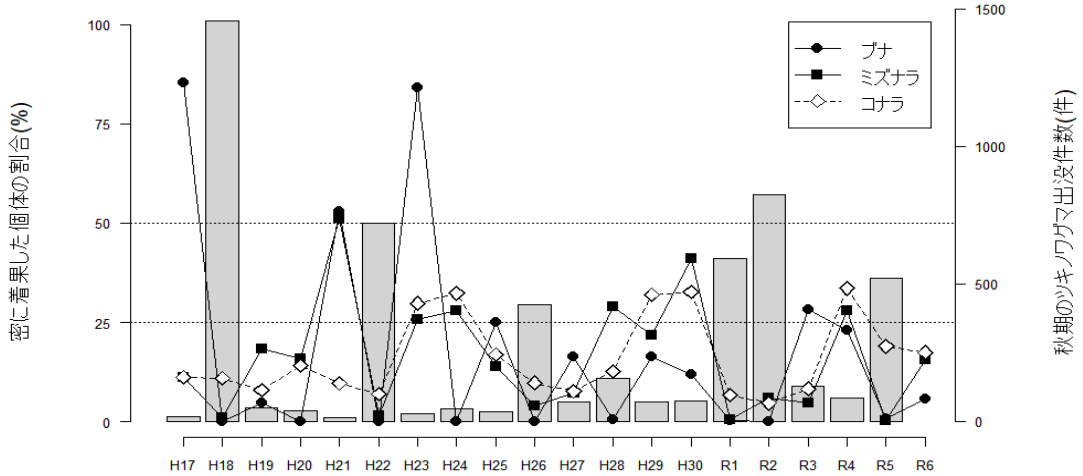
ブ　　ナ：県内 13 地点、260 本を調査した結果、38%の調査木の着果を確認
全調査木のうち、密に着果した個体の割合は 3.5%

ミズナラ：県内 14 地点、280 本を調査し、71%の調査木の着果を確認
全調査木のうち、密に着果した個体の割合は 15.7%

〇低標高域（里山）

コ ナ ラ：県内 16 地点、320 本を調査し、82%の調査木の着果を確認
全調査木のうち、密に着果した木の割合は 17.5%

２ ブナ科樹木の豊凶とクマの大量出没との関係



・ブナとミズナラの密に着果した個体の割合が、そろって著しく低かった平成 18 年、22 年、26 年、令和元年、2 年、5 年の秋にクマの大量出没が発生している（過去の大量出没年における堅果類の密に着果した個体の割合は、ブナが 0.0～0.8%、ミズナラが 0.4～5.9%）。

３ 秋以降の出没予測

・クマの秋の主要な餌資源であるブナおよびミズナラ堅果の結実状況は、過去の大量出没年と比較すると良好であり、同水準であった H19 年や H20 年には大量出没は発生していない。このため、餌資源量の観点からは、大量出没が発生する可能性は高くないと判断される。

・今年の 4～8 月の出没件数は過去最多を記録した。近年クマの生息範囲が拡大しており、常に集落周辺で活動しているクマがいる可能性がある。堅果類の豊凶に関わらずクマと人が遭遇する可能性は高まっており、人身被害が発生する恐れもあることから、警戒が必要である。